

第2期総合戦略策定のための 住民ワークショップを開催しました

2月7日、町役場で町の地方創
生施策を定める「第2期まち・ひと・
しごと創生総合戦略」策定のため
の住民ワークショップを行いました。

ワークショップには町民など34人の
参加があり、これまでの5年間の取
り組みの振り返りや、これからのど
ようなことが必要なのかについて、
意見を出し合いました。
今月号では、その主な意見を紹
介します。



ワークショップへの参加者は、6つのグループに分かれて意見を出し合いました。

これまでのこと

- 馬場目地区ではコミュニティ生活圏形成事業に取り組んでおり、勢いがある。
- 矢崎町内会が実施している「買い物タクシー」の取り組みが素晴らしい。他の地区でも取り組んでほしい。
- 朝市プラスのように、いろいろな人たちの視点を取り入れて新たな取り組みを行うのが効果的である。これまでのプレイヤーと新たなプレイヤーが結合することで、今までと違ったものが生まれる。
- 町のために何かするというのではなく、自分が楽しいとかやりたいからやるのが、結果的に町の活性化につながる人が多い。
- この5年間は、メディアに取り上げられることが多く、「五城目頑張ってるね」と言われることが多かった。
- オール五城目で子どもたちを育てる、見守るようにしたい。親も子どもたちと一緒に関わりたいし、夢中になりたい。
- 旧馬場目小学校の校舎を地域活性化支援センターにしたことが、たくさん人の移住や起業につながった。

これからこと

- 次の世代（子どもたち）への投資が大事である。グローバルな視点を持つてもらい、町を出て行ったとしても、将来は町に戻りたいとか、町のために何かしたいと思えるような人間を育てる。
- グローバル人材育成事業に力を入れ、海外と姉妹提携ができないか。
- 五城目町は災害も少なく、人も親切で、保育料も安く住みやすい。もっと町外から移住してほしいし、外に出て行った方にも戻ってきてもらいたい。
- これまでの取り組みで、海外から町に来る人は増えているが、町から海外に行く人は少ないので、そこを増やせないか。
- 町の中にも関係人口を増やして、町全体にグローバル人材育成事業に関する意識を広げたい。
- 昔やりたかったことやこれからチャレンジできるような環境を整備できないか。例えば、空き店舗などを活用し、ラーメン屋やカフェなどが週替わりで出店できるようなものがあればどうか。

教育

コミュニティ・スクールが始まります

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

2月13日には、1回目となる五城目町学校運営協議会を開催し、学校・保護者・地域から20人の方々に委員に委嘱しました。



2月13日に、五城目第一中学校で「第1回五城目町学校運営協議会」を開催しました。